

HIROKI ~神の一人語り~

hiroki様は神

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

とある県のSSH生、hiroki

そんな彼にある日起こった出来事とは…？

目次

はじめに	1
二話目	4
最終話 HIROKI く神の一人語り	8
おまけ 原作	12

はじめに

はじめに

俺はh i r o k i, とある県のSSH生だ

h i r o k i っていうのはネット上でのハンドルネームだがそれは置いておこう

夏

俺には彼女がいる、学校は違うが純粋で性格の良い自慢の彼女

遠距離恋愛はつらいが俺たちにはそんなの関係ない

……どこまで関係が進んでるか？

まあ俺も高校生、ましてやSSHの俺のことだから交尾まで進んでる……と言いたいと

ころだが

まだ手を繋いだことくらいしかない

あまり彼女には関係ないことだが俺はスマホゲーム「minecraft」でのゲー

ムサーバー

「k u r a r i n s e r v e r」にて権限者をやっている

SSH生ならではの言葉巧みな話術で鯖主を墮としてやったら権限を貰うことができた

やはりネットの住民達は俺みたいに頭がよくなく、顔も良くないらしく俺が彼女の話をすると「え、え、もうhiroki童貞捨てたの???」「彼女いるとかリア充爆破しろ!」などと言ってくる事が多々ある、サーバーオーナーのkurarinには「何人彼女いるの?」と聞かれた

甘いんだよ童貞共

確かに俺はモテる、モテまくっている、しかし俺は彼女を何人も作るような真似はしない

いや、できない

なぜなら俺は はじめに 言ったようにSSH生だからだ

SSH生は頭がいい、同じ権限者のメガ家畜やGiygas, moriyasuなんかとは比べ物にならないくらい俺は頭がいい

俺はその神が授けた頭脳とでも言うべき思考能力で考え続けた結果、彼女を複数人作ることをやめた

俺にとつて彼女を複数人作ることなんて簡単だ、しかし、もしそんなことをしたら彼女達の中で誰が一番俺にふさわしいか、というようなことで喧嘩が起きるだろう

俺はそんなことが起きてほしくない

いや、起こさせない、なぜなら俺はSSH生だから

どうでもいいが俺がkurarin鯖に入ったのは6月頃、

最初はkurarinの事を俺より歳上だと思っていたが、kurarinは中学生だった

俺はそれを知った時驚いた

何に驚いたかつて？

こんな中学生の低能がこの俺「SSH生」より上の立場に立ち、「鯖主」として俺に命令を続けていたことだ

SSH生は常に人より上に立たねばならない

SSH生は人に命令などされてはならない

SSH生は周りから敬われる存在でなければならない

この時、俺は決心した「kurarinのいうことは聞かない」と

まあこんな感じで現実世界＜リアルワールド＞ではSSH生のhiroki
minecraftの世界＜ヴァーチャル・ワールド＞では権限者のhirokiと
して

俺は日々を送っている

二 話 目

・ ・ ・

最後に彼女と会ったのはいつだっただろう

最後に彼女と話したのはいつだっただろう

最後に彼女からLINEが来たのはいつだっただろう

いつしか俺と彼女の心の距離は少しづつ、少しずつ離れていった

このSSH生の俺になら彼女との遠距離恋愛も乗り越えていける、そう思っていた

俺の何がいけなかったんだろう

顔？性格？学力？それともほかの何か？

いや、そんなはずはない、彼女は俺に言っていた

「hiroki君って完璧だよ、私とは大違い！」

あれは俺の聞き間違いだったのか？このSSH生の俺が聞き間違いをしたというの

か？

違う、確かに彼女は言っていた、俺のことを「完璧」だと

・

・ ・ ・ ・

今日、彼女と別れた、どちらが「別れよう」と言い出したわけでもない自然に、ごく自然に発せられた「別れよっか」の一言

その一言は冷え切った俺たちの関係を断ち切るには十分すぎた最後に十字路で俺と彼女が分かれるとき彼女は言った

「h i r o k i 君って完璧だよ、私とは大違い」

ああ、そういうことか、そうだったのか

なぜ今まで気づかなかったんだろう

俺は「完璧」だったんじゃない「完璧すぎた」

彼女は普通の、ごく普通の女子高生だった、

そんな彼女は「完璧」な俺に対して劣等感を感じていたのだろうか

∴SSH生なんて所詮肩書、俺は人間としての「他人を思いやる心」に欠けていたのか

そういや俺は中学生の時は周りに人がいなかった

俺が完璧故のことだと思っていたが今思えば違う

「俺が完璧だったから」じゃない「他人をおもいやる心」がなかったんだ

…なんだ、全然完璧じゃないじゃないか

SSH生は常に人より上？

SSH生は他人に命令されてはならない？

SSH生は周りから敬われる存在？

ちがう、全然そうじゃない

俺はうぬぼれていたんだ「SSH生としての自分」に

その日、俺は久々にkurarinserverにログインした

久々にkurarinと話したときkurarinは俺にこういった「そーいや彼女は？」

俺は言った「ああ、別れたよ」と

kurarinも俺の心が沈んでいるのを察したんだろう、

一分ほど返信がなく、アバターも動いていなかった

しかし、彼は少しして言った「ざまあwww」と

ああ：俺はここでも「周りを思いやる心」にかけていたのか

おそらくkurarinも「こいつ人のこと考えないな」とか「彼女の話してきてう

ざい」

などと思っていたんだろう

俺には 居場所 が無くなっていた

俺には「思いやる心」がなかった

最終話 HIROKI 〈神の一人語り〉

彼女と別れてだいぶ経った、俺は今まで通りの生活を送っている

彼女がいらない、という大きな違いはあるが、やつとこの生活にも慣れてきたところだ
俺の心の傷も癒えてきた今日この頃、最近学校で気になるやつがいる

・ ・ ・
はじめに

俺のクラスにはある女子がいる、

そいつはエロ用語なんかよく知ってるしよく自慰もするらしい、まあつまり変態だ
ちなみに胸は本人によるとDらしく俺の好みだ、

周りから見てもD以上はあるので嘘ではなさそう

この話はこの前ちよつとそいつと通話した時の話だ

俺とそいつはそいつの好きな人の話をしていたんだが、

どういふ訳か話がエロい方向に進んでしまった

そして、その話をするにつれてそいつの呼吸は荒くなっていった
もう分かるだろう、そいつは興奮していた

俺は興奮していることを察し通話を切ろうとした

しかしそいつは俺に「何で切るの？」と言ってきた
なるほど、こいつ俺に言葉攻めをされたい訳か

ここで俺のスイッチが入ってしまったのは言うまでもない

「ふーん、そうなんだ」そう俺が言い、話をつづけた

すると彼女の呼吸はどんどん荒くなっていく

そして俺は聞いた「興奮してるんでしょ？」と

しかし彼女は否定する

まあそうなると焦らしたくなるわけですね（*・・*）

：誰だ俺に対して反感持つてるの、これ小説だから誰かわからないけど

そつから完全に俺のペースに持ち込んでとにかく興奮させてやった

もはや否定してもしきれないくらい呼吸が荒くなってたが完全に無視して話を続けた

俺はもう一度聞いた「興奮してるよね？」と

しかし彼女は否定する

そこで俺は言っただけで「すればいいじゃん」と

すると彼女は驚きの行動を始めた、なんと通話をしているにもかかわらず自慰を始めたのだ

普通切るだろ？しかしそのまま始めやがった

とりあえず邪魔しないよう黙っていた

しかし喘ぎ声が聞こえてくる、どうしようもなかった

本当に困った

その日、その流れで計三回もそいつは行為をした

次の日、俺は聞いた「なんで切らなかったの？」と

するとそいつは言った「聞かれてやる方が興奮するじゃん」と

その通話は先々週の日曜日にしたわけだが

その次の日の土曜日、さらにその次の日の日曜日の夜にも同じようなことがあった

そいつが「焦らして」というから「したい」ってそいつが自分から言うまで

興奮させてやる作業をした

もちろん俺も抜いた

そこで気づいた

俺は利用されていることに

ま、何が言いたかったかというところ、女子の喘ぎ声が聞けたということでした

おまけ 原作

はじめに

クラスにエロ用語なんか良く知ってるし一人でちよいちよいやってるらしい女子（すなわち変態、ちなみに胸はD（と言っていた、嘘ではなさそう））がいるんだが、この前そいつとちよつと通話したときの話だ

そいつの好きな人の話をしていたわけだがどーゆールートだかなぜか話がHな方に進んでつて、その話をしてる内にだんだんそいつの呼吸が荒くなってきたわけだ（わかると思うが興奮している）

察したから切ろうかと言ったんだがそいつは興奮してると思われたくないからかなんで？ととぼけて切ることを拒んだ（これが悪いんだこれ以降の俺は一切悪くない）

ここで俺のスイッチが入ってしまったのは言うまでもない

ふーんって言ってあえてその話を続けたら案の定どんどん荒くなってきてるわけで、ついにストレートに興奮してるのかと聞いたんだがもちろん否定した

まあそうなると焦らしたくなるわけですね（*ゝゝ*）

ぶーしてんの誰だろwebだから通知こないんだけど

そつから完全に俺のペースに持ち込んでとにかく興奮させてやった

もはや否定してもしきれないくらい呼吸が荒くなつてたが完全に無視して話を続けた

相変わらず興奮してるのは否定するわけだが、すればいいじゃんって言つたらそこで驚きの結果が：

普通切るだろ、びっくりしたけど通話切らないまんま始めやがつた

とりあえず邪魔しないよう黙つてたけど喘ぎ声が聞こえてくる、どうしようもなかった

ほんとにガチで困つた○

その日、その流れで計三回もそいつはしたわけだが、次の日なんて切らなかつたのか聞いてやつたら聞かれてるほうが興奮するからだ

しかもその通話が先々週の金曜日なわけだがその次の日の土曜日、さらにその次の日の日曜日の夜にも同じようなことが：

そいつが焦らしてつていうからしたいって自分で言うまで興奮させてやる作業っぽいことをしていた

そこで気付いた

(俺利用されてね?)

まあでも声聞けたしいいやつてことで結論は女子の喘ぎ声が何度も聞けたってことでした

——以下オマケのオマケ

h i r o k i ? @ k u r a r i n | o p 3月16日

♪君と君の好きな人に贈る精一杯「せーのっ!」

僕は背伸びしてエール

ほんと共感できて好きだわ

h i r o k i のハイスペックな点

・SSH在学

・イケメン

・元彼女持ち

・何個かの鯖で権限持ち

・黒歴史を作つても耐える鋼のメンタル

7月頃 h i r o k i 「俺の彼女さあ w w w w w」

9月頃 h i r o k i 「なんか彼女が他の男に移りしたかも…」

12月頃 h i r o k i 「彼女? ああ別れたよ…」

3月頃 h i r o k i 「はじめに(以下略)」